

地理院地図を使用した公共インフラ管理

(株) 永大開発コンサルタント

キーワード

公共インフラ長寿命化管理／公共インフラ管理／施設維持支援／
地理院タイルを使用したGIS／DocuMap feel

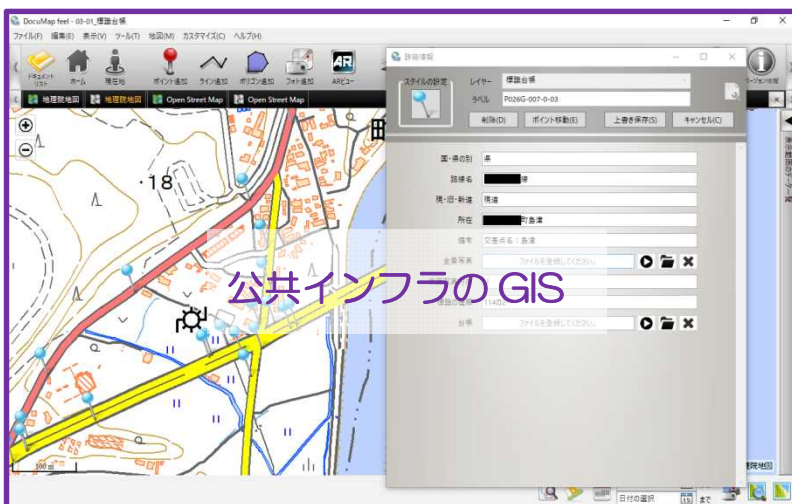
現在、東京オリンピックに向けて様々な公共インフラが構築されています。今回構築されるものに限らず、公共インフラは一般的に計画→施工→利活用→取壊の道筋をたどります。現在は利活用の時期に適切なメンテナンスをおこない、利活用期間の長寿命化の施策が実施されています。

長寿命化には維持管理が必要な条件となり、公共インフラ維持管理とは様々な台帳の整備と更新であるという考えが一般的なようです。しかしながら、維持管理の名目で台帳を整備することが目標となり、本来の目的である台帳を利用した維持管理計画がおこなわれていない場合が多くみられます。ここで問題となるのは台帳完成時から台帳のデータ更新に移行するプロセスについてあまり議論されず、数年に一度の全体見直しをおこなうような管理しかなされていない場合がほとんどであるため、日々の変化に対して台帳と向き合いメンテナンスを入れるという活動がなされていないことにあります。

人間が1年に一度健康診断を受け、それ以外にも体の調子が悪い場合は適宜病院で診察を受けてメンテナンスを加えていく作業をおこなっているように、公共インフラも適宜状況を把握し、向き合うことが維持管理の本来のやり方です。インフラを少ない人数で管理する場合、GISを利用する方法があげられますが、GISで前述のような維持管理はなされているのでしょうか。

今回のコンテスト発表では、維持管理の現場でGISがまだまだ活躍できてない理由と、今後トレンドとなりそうな地理院地図を利用した公共インフラ管理の試行事例を紹介します。

発表の概要



①利活用に対する
障害は何か

②誰が、いつ
データを入力するのか

③業務システムは
どのように構築するのか

④基盤図は
何を使用するのか

⑤オープンデータ戦略等にどのような対応を考えているか